





新春対談

この対談は、1月2日の「こんにちは富山県です」(北日本放送)で放送した「新春対談～日本一・三つの挑戦～」を紙上転載したものです。
 なお、都合上、一部添削してあります。

出席者
 富山県ラグビーフットボール協会会長 **河野 幸治**
 富山市立科学文化センター館長 **長井 真隆**
 富山県知事 **中 沖 豊**

日本一・三つの挑戦

知事 昨年の十月二十七日に、富山県総合開発審議会から新しい県政計画である富山県民総合計画が、答申されました。
 この計画では、「活力にあふれ発展する富山、暖かい心に満ちた美しいふるさと富山」をつくること、
 「健康でスポーツを楽しむこと」がうたわれています。

さらに、二十一世紀に向けて挑戦すべき目標として、三つの日本一があげられています。この三つのジャンルは、県民全てのロマンであり、みんなで努力していくべき目標であると思っています。

この三つの日本一について、話し合っていきたいと思っています。

日本一の健康・スポーツ県

☆日本海側随一の総合体育センターを建設

河野 県民総合計画のなかにも「健康は自分でつくる」と指摘されていますが、私は健康というものは、ハンドメイドというか、手づくりでなくてはならないと思うんです。人からもらってきたり、人から預かるということではできませんからね。

スポーツは、語源的にも気分転換という意味ですからね。**知事** 私も健康というのは、自分でつくるものだという自覚が根本だと思っていますね。そして、健康は日常生活の中でつくられなければならないと思います。よく栄養と休養と運動が健康の三つの要素と言われますが、やはり、食事と睡眠とスポーツの三つが非常に大事だと思います。

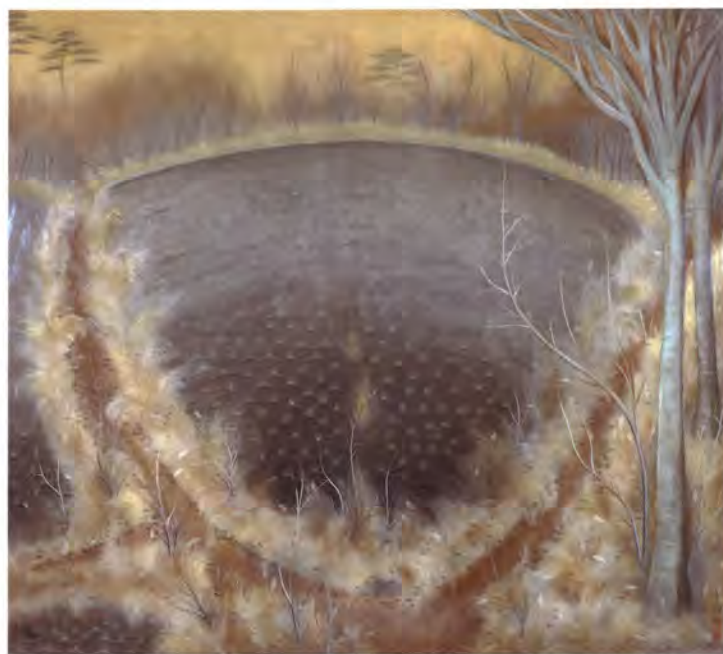
スポーツという点では、施設、指導者、いろんなスポーツの事業といった三つの面からスポーツの振興を考えなければならぬと思っています。

県立近代美術館収蔵美術作品紹介 23

「庭と仔犬」

郷倉 千 靱 1950年作
 紙本・着彩・額装
 169号 × 123号

「庭と仔犬」は、昭和二十五年第六回日展に出品されたもので、千靱五十八歳の作。
 当時、犬をよく飼っていたという。自宅の庭に遊ぶ仔犬たちに惹かれ、つい絵筆を取ってしまった。そんな作者の人柄と対象への暖かい日差しを偲ばせる作品である。



「武蔵野の三角畑」

百号の大画面を、垣根とその下を二分する芝生と熊笹が占有している。大胆な構図だ。
 ここに生氣を吹き込むのは、言うまでもなく、四匹の仔犬たち。とりわけ、中央に位置する黒の仔犬は、その左の後ろ足でしっかりと芝をおさえ、この画面に均衡と緊張を与えている。
 手前の芝生を斜めに走る鬃りは、縁側や屋根の存在を想わせ、白い仔犬の両眼に、その家から庭をながめる人間の視線を感じる。絵を観る者は、自らが縁側に立たされたような錯覚におちいってしまう。

郷倉千靱は、明治二十五年本県小杉町の生まれ。県立高岡工業高校を経て、大正四年東京美術学校日本画科を卒業、アメリカへ留学の後、同十年院展に入選、三年後には、三十二歳の若さで堅山南風らと共に日本美術院同人になる。早くから、その才能と伎倆を認められていた。
 爾来、主に院展を活躍の舞台として五十余年にわたる長い作画生活を送ったわけだが、その仕事が大きく実を結ぶのは、むしろ晩年であった。

寺の壁画「釈尊父王に会いたもう図」、続いて、昭和四十四年には大阪四天王寺大講堂壁画「仏教東漸」を完成する。いずれも、作者七十歳を過ぎてからの成果だ。「努力の人」と言われた所以である。
 晩年の仏教を題材にした前述の大作にくらべ、この「庭と仔犬」や「武蔵野の三角畑」(大正

十五年作)は、テーマこそ異なるが、構図の妙から言っても、ともにそれぞれの時期の傑出した作品といえる。
 当館で現在開催中の美との対話'83展(五十八年四月十日まで)に、この二点を含む郷倉作品数点を展示公開している。ご覧いただければ幸いです。

(学芸員 島 敦彦)

2月号

●もくじ	県立近代美術館収蔵美術作品紹介	表1・2
	新春対談 日本一・三つの挑戦	1~4
	置県百年記念事業	
	「県民のひろば」作文募集	5
	明日を拓く若者たち	6~7
	とやま「あの日あの日」	8~9
	富山県の転機を探る⑩	
	観どころ味じまん ⑩利賀村	10~11

いきいきライフスポーツメニュー	12~13
県立近代美術館「美との対話'83展」開催	14
「明日を拓く青年の船報告展」開催	15
こちら消費生活センターです	16~17
トピックス・県政のうごき・お知らせ	18~19
みなさんと県庁のバイブ役	20
県有施設紹介⑩ 富山県知事公館	表3
福祉の店オープン	表4

「積極的に3つの日本一に挑戦し、県民が生活することに喜びと誇りを感じる地域にしたい」と語る中沖知事



県営総合体育センターの完成予想図

富山県の児童生徒を見ますと、体力は日本でトップクラスであるけれども、体力がないんですね。ですから、施設、指導者、いろんな運動事業の三つを通じてスポーツ振興をはかりたいと思っています。

特に、スポーツ施設については、今、日本海沿岸ではトップ

クラスの総合体育センターを空

港周辺に造っていますし、今後他の施設整備を進めたいと考えています。

河野 いろいろな施設をつくっていたら、それを私たちが活用し、スポーツを楽しみ健康になるというハンドメイドの気持ちで県民一人ひとりがまた

日本一の花と緑の県

☆地元の木を増やす

長井 ところで、やはり健康とかスポーツに日本一を目指すということになりまして、やはり自然環境ということが非常に重要になってくると思います。知事 緑というのは、人の心に安らぎと潤いを与えます。

ある市町村の例ですが、あまり仕事をしないで木ばかりを植えていたところ、他の市町村では人口が減っていったのに、その市では人口が増えたという話があります。やはり、これからは花と緑で

なければならぬと思います。

☆西暦二千年に富山国体を

知事 ここで特に申し上げたいのは、西暦二千年に富山で国体を開きたいということです。

昭和二十一年に第一回目の国体が始まり、各県一巡するの昭和六十二年ですから、二巡目

の国体が昭和六十三年に京都から始まるわけです。そこで、昭和七十五年、西暦二千年に二巡目の国体を富山県で開きたいと思っています。

そのためには今から施設を整備し、指導者も養成して、天皇杯も一位にするようにしなければならぬと思っています。

いっぱい県をつくらなければならぬと思いますね。

県としては、グリーンプランをつくり、それを着実に進めていくことを考えています。

今までも、花と緑の銀行という全国でもユニークな組織でその事業を進めていますし、また、桜の園もつくっています。

それから富山県は何よりもチューリップ（球根輸出）では、日本一ですから、チューリップフェアなども盛んにするとか、城端線沿線を花いっぱいにするとか、いろんなことがあると思っています。

また、今年の十月には全国育樹祭を皇太子ご夫妻をお招きして開きたいと思っています。

この全国育樹祭を中心にして、植樹と並んで育樹も積極的に進めたいと思っています。

長井 育樹というのは、非常に大切だと思いますが、やはり花と緑というのと、とかく何でも持ってきて植えれば良いというものではないと思いますね。

富山県は植生自然度が全国第三位で、三〇・九割なんです。そういう面から見ると、私たちの生活圏には、県外のものよりも、むしろ地元のものを持って

くればよいのではないのでしょうか。

例えば桜ですと、ソメイヨシノはきれいですが寿命が短かく、実がならないという問題があります。しかし、地元のコシノヒガンというのは寿命が数百年から一千年と長い。このような地元の樹種を植えていくことも大切でないかと思えます。

そういう意味では、苗を育てる時に、地元に適するものを選定して植樹に回すことが、一番いいと思うわけです。

河野 花と緑は、いくらあってもありすぎることはないと思います。それもおしきせでなく、自分でつくることが必要です。

富山には、本来の緑も花もありません。だとすれば、私たちがもし見落したものがあつたら、それをもう一度取り入れたら、再確認するということが必要ではないでしょうか。

長井 数年前に国際植生学会が日本であり、海外の学者が日本の水田を見て、水田公園と驚いていました。ですから、水田と

か、ナシとかそういうものをみんな取りこんで、緑を豊かにしていくことが必要だと思います。

これは、一つの地元の文化を育てる面でも非常に意味があると思うわけです。

☆県庁前に花時計を

知事 県庁前の公園に花時計をつくる計画を企てていますが、世界的にもすばらしいものにして、県民のみなさんに、親しまれるようにしたいと思っています。

長井 やはり季節の花などをあしらひながら、楽しい雰囲気にしていただきたいですね。

知事 健康でスポーツに親しみ、花と緑いっぱいの環境をつくらせて、県民がお互いに生活することに喜びと誇りを感じるような地域にしたいと思っています。



県庁前公園に建設される花時計

日本一の科学・文化県

☆生活の中に文化の芽が

知事 富山県がこれから新しい世紀に向けて旅立つわけですが、

それには、科学が生まれ、文化の芽が育たなければなりませんし、そのように政策を進めなければならぬと思っています。

科学・文化については、どのようにお考えですか。河野 科学にしても文化にしても、誰かがもってくる、やって



「健康・スポーツ、花と緑、科学・文化もハンドメイドでなければならない」と語る河野幸治さん



「雪と対応しながら、富山の文化を育てていかなければならない」と語る長井真隆さん

くれるというのではまずいと思います。自分から積極的に飛び込んでいき、早く自分のものにするのだという積極性が必要ではないでしょうか。

長井 私も文化というのは、誰かがやってくれる文化があって、そこへ私たちが近づくんだけ、取り入れるんだという発想は、大きな誤りではないかと思えます。私たちが毎日生活していること自体が文化なんです。

人が見て、すばらしいと感動を与えるものが、文化の一つの条件だと思えますが、そういう意味では、富山県には富山県らしい文化がかなりあるわけです。

例えば、屋敷林なんかでも、南西の風という冬の一つの季節風の中で生まれてきたすばらしい文化だと思えます。それから、トタンで家を巻くというトタンの技術や、全国の三〇ほど生産されているアルミサッシもすばらしい文化だと思えます。

つまり、文化というのは、私たち自身が毎日生活していることの一つ一つが文化だと意識する

るところに、文化の芽ばえがあると思うんです。

河野 私たちは現に生きているのですから、自分の周囲を見回したり、どうしてだろうかと考え直したりして、それならばどうすればよいのだろうかと考えていけば、難しいことではないと思えます。

☆創造性豊かに

知事 富山県人というのは、昔から、非常にすぐれていると思っています。

しかし、世界がどんどん変わっていくなかで、これからは強くたくましく生きぬくという努力をしなければなりません。

そのためには、体力もなければなりません。さらに創造性豊かな人間が大切になってくると思っています。つまり、人づくりが県政の基本だと思えます。

河野 これからは、積極的に周囲を見回し、どうしていかなければならないか評価しながら、前へ向かっていくという積み重ねが必要ですね。

今年も、置置百年に当たります。これを記念して県教育委員会では、百年の節目を祝う

「ひろば」に集まろう!

「ひろば」は人が集まるところです。集まれば話はずみずみす。「県民のひろば」と名付けられたのもこの意味からです。

この「ひろば」には、県内外の県人や関係者が相集い、そこで、優秀作文四編の紹介、各界！各世代代表者によるパネル・ディスカッション、東大教授佐伯彰一氏の講演などを催し、富山県の未来の姿をさまざまな角度から探っていきます。

この「ひろば」は今年五月二十一日(土)に県民会館で開催しますが、県民の皆さんの参加を得て、集いの輪を広げたいと思えます。

さらに輪を広げよう!

とはいいながら、県民会館に集まれる人数には限りがあります。



熱心に雪の研究を行う子供たち

例えば、雪が降っておどまらぬと思わず、「このやろう」という積極的な気持ちでファイトをわかせば、雪もいきてくるのではないのでしょうか。

長井 今年はイノシシ年ですが、イノシシはヨーロッパでは勇者のシンボルとされています。ところが、富山県にはイノシシ

シはいないんです。イノシシは雪のために歩くことができず、生活していくことができません。このイノシシにはわるいんですが、私たちは、やはり雪と対応しながら一つの富山の文化を育てていきたいと思えますね。

知事 今日は、どうもありがとうございました。

とともに、未来に向けて更に力強く羽ばたくことを願い、「県民のひろば」を企画しました。

す。そこで、できるだけ多くの参加を」と願う「ひろば」の趣旨に沿って、作文募集という形で参加の輪を広げることになりました。

作文応募要領

表彰

部門 少年・青年・壮年・高年の四部門に分けます。

表彰 各部門ごとに一編ずつ優秀作品を選び、賞状・賞品を贈ります。

内容

富山県の現状をみつめ、未来への展望を描いたもので、次の参考題に準じたものとして、(参考題)「ぼくの夢・わたしの夢」美しいわがふるさと「郷土に生きる」明日への贈り物「いい人・いい味・いきいき富山」

締め切り 昭和五十八年二月二十八日(月)当日消印有効

送り先など 氏名・年齢・郵便番号・住所・職業(在学中の場合は学校名と学年)・電話番号を明記し、次のところまでお送りください。

字数

四百字詰め原稿用紙五枚以内とします。

〒930 富山市新総曲輪一七 富山県教育委員会生涯教育室

明日を拓く若者たち

第34回「成人の日」記念優良青年等表彰者のみなさん

明日の富山県を築いていくのは、郷土を愛し、活力に満ちた若者たちです。そのためにも、若者たちが若い力を社会のために発揮できるように、若者たちの健全な育成や積極的な社会参加を図ることが必要です。

山本繁幸さん (二十八歳・立山町)



「現在、青年団組織が停滞しているの、仲間の連帯を深め、組織の拡大に努めていきたい。また、活発な青年団活動ができるよう、事務局の体制や財政の安定化を図っていきたい。」と今後の事務局活動に意欲を燃やす山本さん

昭和四十八年以来青年団活動に参加し、昭和五十五年、県青年団協議会常任理事に就任。現在、県青年団協議会事務局長として、指導、企画、青年団活動拡充などに努力しています。また、県内の青年団のまとめ役として、立山美化運動をはじめ、県内外の青年交流、県青年協議会の充実に貢献しています。

滝川賢さん (二十八歳・富山市)



「すでに青年団のなかでは高齢になってしまったので、今後は、同じ年代の仲間が集まって、青年団の問題点などを研究する組織をつくり、若い団員にアドバイスしていきたい。」と今後の抱負を語る滝川さん

昭和四十九年に太田校下青年団に入団して以来、校下青年団、富山市青年団協議会の活動に積極的に取り組んでいます。現在、市青年団協議会副会長として、婦人会、市民会議との交流研修、青年議会、青年研修会などに優れた指導力、豊かな企画力を発揮しています。

そこで県教育委員会は、「成人の日」を記念して、県下の青年、青年団体などのなかから、他の若者たちの模範となり、優秀と認められる次の青年たちを表彰しました。これらの若者たちの活動状況などについて紹介します。

八尾町野積青年団 (団長 大井正俊さん)

地域に根ざした青年団活動の「三文」を発行し、全戸に配布し推進に努力し、奉仕活動では地区の中核的存在として地域住民から高く評価されています。

また、昭和五十四年に合唱部を設立し、昭和五十七年、町県広報活動として、地域の歴史、青年大会で優勝し、全国青年大会の問題点、若者の意見、主会の合唱の部で努力賞を受賞し張などを掲載した機関紙「二足」



交通安全運動の一環としてカーブミラーをめぐ

「今後、機関紙『二足三文』の内容の充実を図り、地区住民に親しみのもてるものになりたい。また、今までの活動を見直し、ただ行事の消化だけに終らず、目的意識をもって活動し、それによって団員の連帯を深めたい。」と熱心に語る八尾町野積青年団

氷見市青年学級連絡協議会

(会長 和泉徳清さん)

市内の青年学級を統合して組織され、独自の研修計画を立てて、実践的な活動を展開しています。

た保健講座、郷土芸能伝承講座、社会一般知識講座を開催するなど、学習を通して青年の連帯と向上に努めています。

研修事業としては、指導者を対象に、初級研修会、女子研修会、リーダー研修会を実施するとともに、全学級生を対象とし

また、公共施設、観光地などの清掃美化活動や春秋の交通安全全キャンペーンなど積極的な郷土奉仕活動を行っています。



美しい郷土を目指し、空き缶やごみを回収

「市内19地区青年学級のまとめ役として、青年学級の原点にもどり、地域に密着し、現代に適應した新しい青年学級をつくっていききたい。また、研修事業では、全学級生を対象とした研修を多く開催していきたい。」と今後の目標を語る氷見市青年学級連絡協議会



「帆柱おこし」の練習に励む

「最近、青年学級離れが進むなかで、学校教育の延長ではなく、社会教育として自分でつくり、自分で学ぶことができる学級教育を進めていきたい。また、県内の埋れた郷土芸能を発掘して、紹介していきたい。」と今年度の学級活動の目標を語る加積青年学級

加積青年学級

(魚津市 学級長 武隈克彦さん)

昭和二十九年以来、合理的な学級経営によって、後継者養成に努めています。

学習内容としては、課題別シリーズ学習を企画し、時事問題、技術修得、郷土の歴史などを組み合わせ、工夫を図っています。また、ボランティア活動として、障害者と手話による交歓会、交通安全キャンペーン、地域美化活動、郷土芸能「帆柱おこし」による友情出演などを行い、地域に大きく貢献しています。

広瀬館青年団

(福光町 団長 常本剛弘さん)

「見よう、聞こう、話そう、行動しよう」をテーマに活発な活動を繰り広げています。

ターなど多数発行して、他団のモデルとなっています。

春秋の交通安全キャンペーン、住民大会の協力、町主催の青空フェスティバルなどに積極的に参加しています。また、ふるさと美化運動として、県立自然公園医王山の夏季登山道整備を十年間も継続しています。

調査広報活動も活発に行い、団報、行事案内のチラシ、ポス

「昨年12月に完成した新しい公民館を活動の拠点として、今まで以上に活発な活動を進めていきたい。そして少しでも地区のために役立てれば……。」と今回の表彰によって今まで以上の活動を目指す広瀬館青年団



医王山登山道の整備に汗を流す

とやま「あの日あのとき」

富山県の転機を探る⑪

国家の運命の下で

—— B29の来襲、昭和二十年八月一日 ——

昭和十一年四月から二カ月にわたってくり広げられた日滿博は、置県半世紀の新しい門出を思わせた。事実永年海外にあってが真の文化は郷土の研究活動

にこそ求められるべきものとして帰郷し、地域文化のバイオニアとして活動に入った翁久充が、「高志人」を創刊したのも日滿博直後の七月のことであった。こうした地域の新しい門出も国家と世界の大きなうねりの中で不可避免的に別の運命を辿らざるをえなかった。昭和十二年七月七日、蘆溝橋事件に端を発した日華事変はやがて太平洋戦争へと拡大、県民は好むと好まざるにかかわらずその運命の中に没入していった。

高級運動靴店

米英撃滅 だ誓う て守れ 新商道

戦争完遂をよびかけるポスター



耐乏生活の一つ……衣料切符

戦時下の耐乏生活

日中戦争は拡大していったが、それは遠い大陸での出来事であり、耳にする皇軍の連戦連勝のニュースは県民を酔わせた。しかし、戦局は收拾の目途のない

まま、泥沼の様相ををいしていき、県民生活はしだいに圧迫されはじめた。昭和十三年の「非常時生活等二関スル通牒」には「屑物の活用条例」そして十五年の「七・七禁令」と消費生活が極度に抑えられ、「欲しがりません勝つまでは」となっていた。

この制度は名だけとなり、生きるためにヤミ物質の購入や買出しをよぎなくされ、国民生活はどん底にまで落ちていった。しかし、人々は、大東亜共栄圏の樹立を確信し、最後まで戦勝を念じていた。

日米開戦による世界戦争への突入は事態を一段と深刻化させた。昭和十七年の「金属類特別回収富山県実施要項」は、その対象が家庭用具・祭具からやがて金歯の類にまで及んでいった。戦いの長期化により衣食の必需品などが不足し、配給制が実施されていたが物資の激減によって

富山空襲

無謀な延戦への反応意見は議會できえも封殺されていたから個人の反戦主張などはことごとく圧殺された。昭和十七年に起こった泊事件（現朝日町で起こった細川嘉六らへのデッチあげ事件）などがその好例であった。

国民は最後まで戦勝を信じて疑わなかったが、米B29による本土空襲は、昭和十九年六月から始まっていた。富山市が七十機を超える米軍機の爆撃にさらされたのは昭和二十年八月一日夜半であった。わずかに数刻のみ



空襲で炎上する富山市(北日本新聞社提供)

第22回 利賀村 観どころ味じまん



大自然の中をゆったりとスキーを楽しむ



五箇山 スキー場

五箇山スキー場は、四月上旬までのんびりとスキーを楽しめる初級・中級者向けのスキー場です。
雪質は北陸には珍しく一日中粉雪。標高千メートルから山なみを見おろしながら滑ることができます。
スキーの後は、民宿でゆったりと体を休めながら、利賀の民話に耳を傾けるのもいいものです。

案内図



■お問合せは

- 五箇山スキー場
スキー場管理事務所 ☎(076368)-2902
(シーズン期間)
- 富山県東砺波郡利賀村189
利賀村役場企画室 ☎(076368)-2111
- 民宿案内
利賀村商工会 ☎(076368)-2527

利賀村の 手打そば そば祭り

江戸時代から、利賀村には手打そばを食することが伝わっています。

今なお、そば粉は右つすでひき、ふるいにかけてものもちい、つなぎには、卵・山イモを使い、丹念に手で練り上げます。これをめん棒で平均にのばし、小口から細く切り上げ、さらに熱湯にほくしてゆで、ざるに入れて湧水にさらしたあと水を切ると風味豊かな手打そばができます。

この手打そばの味覚を楽しむため、毎年二月十一日にはそば祭りが行われています。

今年も、利賀村北豆谷の利賀村小学校北豆谷分校体育館で十一時から行われます。

みなさんも利賀村の手打そばを味わってみてください。



雪の中でゆでられた手打そばは、格別な味

生涯スポーツのすすめ

いきいきライフスポーツメニュー

県では、県民ひとり一スポーツの推進を図るため、昭和五十二年度から毎年、年代層別に生涯スポーツメニューを作成してきました。

今年度は、その第五集として、「スポーツで活力ある豊かな生活を——スポーツを生涯の友に——」をテーマに、青・壮年層を対象とした「いきいきライフスポーツメニュー」を作成しました。

このメニューの中から主なものを紹介しましょう。

まず、「運動を（している人）」と（していない人）」の体力差が十歳ぐらいいり、精神的なストレスがたまりやすく、成人病を引き起しやすい忙しい年代だからこそ、運動が必要であることを訴えています。

（第1図）メニューの内容としては、へ身体の動きのテストで一応の体力の目安をつけて、積極的な健康・体力づくりをするための

糸口にすることからはじまります。（メニューNo1）

次に、日常生活の中で気軽にできる簡単なトレーニングやスポーツ（メニューNo2・3・4・5）を進め、肩こりや腰痛、ギックリ腰などの予防体操（メニューNo6・7）、ジョギング（メニューNo8）まで、誰にでもできるようわかりやすく解説してあります。（第2～4図参照）

「お父さんは疲れている」、そんな汚名をばん回すためにも若さを保つスタミナづくりが大切であり、私たちの生活の中に身近かにできるスポーツやレクリエーション活動をとり入れて、「明るさ、楽しさ、若さ」をつくりたいものです。このメニューはそのお手伝いをいたします。

このメニューを希望される方は、県教育委員会体育課（0764-314111、内線291・293）へお問い合わせください。

メニューNo1 身体の動きテスト (第2図)

一応の体力レベルの目安をつけて、積極的な健康・体力づくりをする糸口にしましょう。

- ①閉眼つまさき立ち、ひざ屈伸 ②両足開閉 ③立幅とび ④伏臥上体そらし ⑤仰臥あし上げ(背腹の筋力) ⑥息こらえ



点	1点	2点	3点
男子	20~24	25以上	
女子	170以上		
体力年代	50歳代	40	30

点	1点	2点	3点	4点	5点
男子	0~5回	6~10	11~15	16~19	20以上
女子	0~3回	4~7	8~10	11~14	15以上
体力年代	50歳代	40	30	20	20(強健者)

点	1点	2点	3点	4点	5点
男子	1~15回	16~18	19~21	22~24	25以上
女子	1~15回	16~18	19~21	22~24	25以上
体力年代	50歳代	40	30	20	20(強健者)

点	1点	2点	3点
男子	1~18cm	19~24	25~29
女子	1~10回	11~12	13~14
体力年代	50歳代	40	30



点	4点	5点	
男子	29~32	33以上	
女子	18~19	20以上	
体力年代	50歳代	40	30

点	1点	2点	3点	4点	5点
男子	0~35cm	36~42	43~50	51~56	57以上
女子	0~23cm	24~33	34~46	47~55	56以上
体力年代	50歳代	40	30	20	20(強健者)

点	1点	2点	3点	4点	5点
男子	0~3回	4~8	9~13	14~18	19以上
女子	0~2回	3~6	7~10	11~14	15以上
体力年代	50歳代	40	30	20	20(強健者)

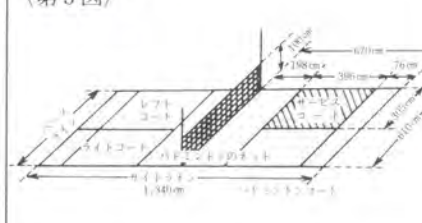
点	1点	2点	3点
男子	1~18秒	19~23	24~28
女子	1~12秒	13~15	16~17
体力年代	50歳代	40	30

メニューNo7 予防体操 (腰痛・ギックリ腰) (第4図)

ふだんから体操を行い腹筋力や背筋力の減退を防ぎましょう。



メニューNo3 (第3図)



フレッシュテニスとは……

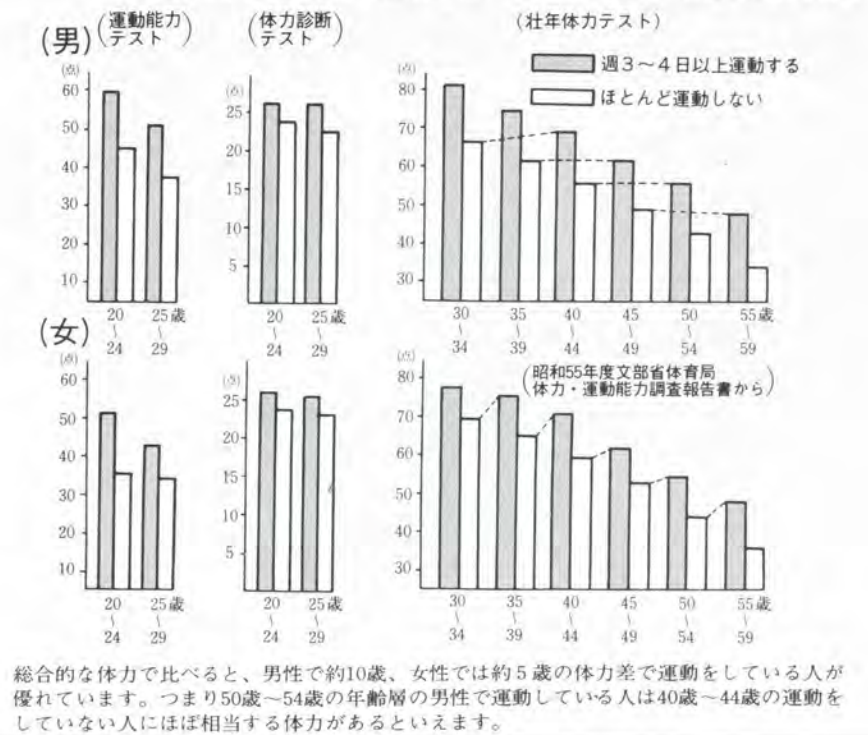
- ・テニスのスマートさと楽しさを、手軽に誰にでも味わうことができます。
- ・テニスボールと同じサイズのスポンジボールを使用。
- ・シャフトの短いラケットを使用。
- ・1ゲームは4点先取した方が勝とし、3対3になった場合2点連続して先取した方が勝。7ゲームの場合4ゲーム先取した方の勝。

フレッシュテニス 青年も壮年も楽しく



体力に応じた運動量でさわやかな汗をかきましょう。

こんなにちがいます 「運動をしている人」と「していない人」の体力差



「美との対話 '83 — 収蔵作品から —」展開催



「武蔵野秋景望富岳之図」

富山県立近代美術館では、二月六日から四月十日まで「美との対話'83—収蔵作品から—」を開催します。

この展覧会は昨年に引き続き、大きく三つのコーナーを設けました。

郷土出身の美術家たち

日本画の郷倉千鞠・石崎光瑤をはじめとし、彫刻の横江嘉純、美術工芸の須賀松園・山崎寛太郎・横山白汀など富山県に生まれ、大正期から今日にかけて活躍した郷土美術界の先駆者の存在の作家たちに加え、現在活躍中の前田常作（油絵）・南桂子（版画など）らの作品を紹介します。

新収蔵品を 中心に 国内作家の秀作

すでに新聞などで紹介された寄贈作品、菱田春草「武蔵野秋景望富岳之図」、中谷散古の木像「百萬」、棟方志功の彩

色画などのほかに、田村一男ら現代日本画の秀作を展示します。

新収蔵品を 中心に 現代のポスターデザイン

昨年春に開催した「現代日本のポスター」展の後、当館のポスター収集の姿勢にご協力を紹介いたします。

※入館料 一般百五十円、高・大学生百二十円、小・中学生八十円

「第12回明日を拓く青年の船報告展」開催

一般部門では、中国の産業、教育、福祉施設などの訪問施設の内容や、瀋陽市で行った人民公社での共同作業、日中青年座談会、交歓運動会、船上交歓会などを中心に紹介します。（写真は、熱心に意見交換を行った日中青年座談会）



農業部門では、カリフォルニアの合理的な農業経営、機械化農業の実態、現地で行った体験農業の様子、カナダの大自然とその保護政策などを紹介します。（写真は、大型機械の実習に励む団員）



第十二回明日を拓く青年の船は、中華人民共和国（一般部門）およびアメリカ合衆国、カナダ（農業部門）を訪問し、多くの成果をあげました。

そこで、その成果を県民のみなさんに報告し、この事業の趣旨を理解していただくため、その報告展を次のとおり開催します。

みなさんのご来場をお待ちしています。

開催日時・場所

会場	開催日時	場所
富山会場	2月12日(土)午前10時から 13日(日)午後5時まで	富山市 産業奨励館
高岡会場	2月19日(土) 20日(日)	高岡本丸会館
砺波会場	2月26日(土) 27日(日)	トナミシヨッ ピングプラザ
新川会場	3月5日(土) 6日(日)	魚津 サンプラザ

内容

- 1、写真入りパネルの展示
- 2、記録映画、スライドの上映（各三十分）
- 3、現地での土産品などの展示

●商品別子どもの危害

(50.4~56.3)

1. 花火	60
2. 自転車	59
3. おしゃぶり	32
4. おしゃぶり以外	31
5. ベビーカー	31
6. 炭酸飲料	24
7. 模型	20
8. ブランコ	20
9. 椅子	18
10. 歩行器	18

比較的多いおしゃぶり事故
— 国民生活センター資料 —



乳幼児期には、身体の発育や精神の発達が未熟なためにおきる事故があります。また、商品に問題があったり、おとなの保護や監督がゆきとどかなくて起きたという危害もめずらしくありません。

今回は、センターに寄せられた相談事例をもとに、赤ちゃんの安全について考えてみました。

相談
☎(0764)32-9233(高山)
☎(0766)25-2777(高岡)
テレフォンサービス
(0764)41-0999による、消費生活情報の提供

持ち手ひもが切れた赤ちゃんかご

赤ちゃんの安全を考える

相談事例

デパートで買った「赤ちゃんかご」を一カ月余りしか使わないうのに、持ち手の付け根ひも二本よりのうち二本が切れてしまいました。

このかごは、子供（生後三カ月半）の通院時に乗用車を使う際使用しています。使用した回数、十回程度で無理な使い方にはしていません。

赤ちゃんを入れていて、突然ひもが切れたりすると大変危険です。このような商品が出回らないように注意していただきたい。（二十五歳・子供の母）



持ち手ひもが切れた赤ちゃんかご

センターでの対応

センターでは、同一商品の試買テストを行いました。その結果、持ち手ひも（四本より合せ）の引張り強度は二回の平均で三十三・五キログラムでした。また、一定回数使用した後の強度は、使用前よりも低下していました。

さらに折り曲げテストでは切れやすいことも確認されました。販売店へ同様な苦情があるかどうか照会したところ、「このような事例は初めてである。」との事でした。次に問屋へ同趣旨の問い合わせをしたところ「前から、自社独自で改良し補強している。ただし、苦情は入っていない。卸元は中国から一手に輸入している業者である。」との回答がありました。

輸入業者へ苦情内容を伝えたところ、「商品の改良に努め売り出している。これまで苦情を受けたことがない。素材はどうも編んだものである。」との説明がありました。

センターから、販売店、輸入業者へ見解ならびに今後の対応策について回答を求めたところ、販売店では、「テストした結果、同様な問題点が指摘される。苦情のでた製品は以後販売を中止している。別に同じ材質の商品も販売しているが、この方は芯材として綿ひもを使用しており、強度は優れている。また、新たに本体を柳、持ち手を皮にした新製品に改め、販売していく予定である。今後とも、商品の品質管理の徹底に努力していく」とのこと。

赤ちゃんに多いおしゃぶりが事故

一方、輸入業者からは、「苦情品は改良前のもので、現在、販売中のものは強度を二倍にしてある。今後、素材も含め検討したい。」と回答が寄せられました。申出者へは、販売店から返金措置がとられました。

先の相談事例のように、赤ちゃん自身ではどうすることも出来ない事故に「おしゃぶり」によるものもありません。国民生活センターの資料によると、おしゃぶりによる事故が比較的多く

- ① 一歳七カ月の女児がおしゃぶりを口にくわえて遊んでいるうち、何かのひょうしで前のめりに倒れ、鼻と口の間を切り五針縫うけが。
- ② 九カ月の女児、おしゃぶりの球体部分のどにつかえて窒息死。
- ③ 七カ月の女児、母親がおしゃぶりを与えて外出。三十分後に帰宅したところ、窒息状態になっており、すぐ入院手当てしたが生き返らず。

「親が目を離さないように」という注意書もつけられているようですが、おしゃぶりは、ぐずる子供に与えるのが一般的な使い方。親もメーカーも共に考えなければならぬ商品です。

STマークがついているものを……

日本玩具協会ではおしゃぶり、浮輪など個々の製品基準に合格したものにSTマーク（SAFETY TOY）安全なおもちゃ）表示をしています。万一事故がおきた場合、賠償請求がきます。STマークは、全おもちゃの八割につけられています。購入の際はマークのついていないものを選ぶようにし、万一事故が発生した場合は、親の不注意、怠慢と思いきまずに消費生活センターに状況を知らせ相談してください。



●子ども用品と法律

- 食品衛生法 粘土や風船、折り紙、つみ木など特定のオモチャは、口に入れても有害でないよう、着色料などを規制
- 有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律 おしめや乳・幼児用下着などについて、ホルマリンや有機水銀化合物の含有量を規制
- 電気用品取締法 電熱式おもちゃなどについて、手の触れる部分の温度や構造を規制

12月16日～1月15日

12月18日

☒パラレルリフト完成 県営ゴンドラスキー場

県営ゴンドラスキー場のユートピアゲレンデに、2基のリフトが同時に動く県内初のパラレルリフトが完成しました。

このパラレルリフトは、7,700万円をかけて建設され、1時間に1,200人のスキー客を運ぶことができます。

これによって、スキー客の待ち時間が短縮されます。



パラレルリフトの完成を祝う落成式

12月20日～22日

☒北陸新幹線の住民説明会開く

12月6日に北陸新幹線の環境影響評価（環境アセスメント）報告書案が公表されましたが、この報告案に対する住民説明会が、12月20日富山市、12月21日黒部市、12月22日福岡町で行われました。

12月21日

☒12月定例県議会閉会

12月定例県議会は、昭和57年度一般会計補正予算など22案件と「農畜産物の輸入自由化・枠拡大に関する意見書」など3意見書を原案どうり可決し、閉会しました。

12月24日

☒富山県総合雪対策研究会議 第2次中間報告答申

富山県総合雪対策研究会議（会長高山英華東京大学名誉教授）は、第2次中間報告書を中沖知事に提出しました。



県総合雪対策研究会議高山会長から第2次中間報告書をうけとる中沖知事

この中間報告は、56年の雪対策の基本的な考え方を示した第1次中間報告にもとづき、その実現の方策を検討し、必要な事項を提言するもので、無雪害都市構造、雪に強い交通、除排雪システム、雪に関する情報についてまとめています。

12月24日

☒米の作況指数、全国でトップ

北陸農政局富山統計情報事務所が24日発表した富山県の57年度産水稲の収穫量は、27万5,900トンを、56年度よりも7,700トンも増加しました。

また、10%当りの収穫量が511%で、作況指数は105（やや良）となり、全国の作況指数が96（やや不良）と落ち込んだにもかかわらず、北海道と並んで全国でもトップの豊作を達成しました。

12月24日

☒56年度経済成長率 名目で4.3%

56年度県内総生産は、2兆4,242億円で、経済成長率は名目4.3%（実質で1.8%）となり、前年度と比べ、名目で2.1%下回り、実質で1.7%上回りました。

また、県民一人当りの所得は、167万8,130円で、前年度より3.5%伸びました。

2月の街頭献血日程

月日曜	場 所	時 間	月日曜	場 所	時 間
2/1(火)	氷見市役所前	10:00～15:30	2/19(土)	電鉄桜井駅前	10:00～15:30
5(出)	富山駅前	10:00～16:00	19(土)	高岡駅前	10:00～15:30
5(出)	高岡駅前	10:00～15:30	26(土)	富山駅前	10:00～16:00
12(土)	富山駅前	10:00～16:00	26(土)	高岡駅前	10:00～15:30
12(土)	高岡駅前	10:00～15:30	27(日)	高岡駅前	10:00～15:30
13(日)	富山西武前	10:00～16:00			

1月4日

☒重点要望事項すべて予算化

富山県が重点事項として、国に要望していた高岡短期大学（仮称）の創設、北陸新幹線の建設など47事業のすべてについて、予算措置が確実または有望となり、明るい展望が開かれました。

1月5日～1月30日

☒わたしたちの壁画'83開催

県立近代美術館では、昨年度に引き続き「わたしたちの壁画'83」を開催しました。

この展覧会は、県内の小・中学校30校の児童生徒が制作した壁画を展示するもので、作品の大きさ、テーマ、素材もすべて自由で、学校ごとにさまざまな工夫が凝らされています。

1月11日

☒第7回全国育樹祭 第1回富山県実行委員会開催

10月上旬に開催される第7回全国育樹祭第1回富山県実行委員会が開かれ「育てる緑に明るい未来」をテーマに県民総参加で成功させることを確認しました。

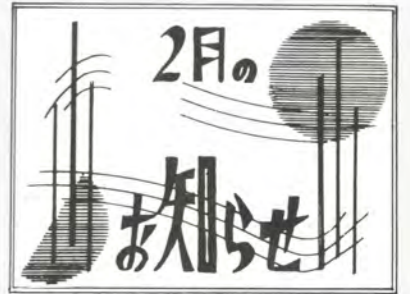
この育樹祭は、大山町本宮の立山山麓家族旅行村で、関係者ら4,500人が出席して行われ、次のような行事が予定されています。

- 大会長、富山県知事、農林水産、文部大臣らのあいさつ
- 皇太子殿下のお言葉
- 緑の少年団活動発表
- 大会決議

また、育樹祭前日にも、多彩な行事が予定されています。



工夫を凝らした力作が並ぶ「わたしたちの壁画'83」



●「富山県学生寮」、加越能育英社「明倫学館」 寮生、塾生募集

「富山県学生寮」と加越能育英社「明倫学館」では昭和58年度の寮生、塾生を募集します。

資格は、東京周辺の2部を除く4年制大学に在学中、または、入学見込みの男子学生に限りま。

募集定員 それぞれ約20名
申込先 富山県学生寮
募集期間 東京都世田谷区赤堤1-20-15
2月10日から3月10日まで
明倫学館
東京都文京区小石川3-11-6
2月12日から3月12日まで

なお、願書などについては、県教育委員会総務課（☎0764-831-4111 内257）までお問い合わせください。

●危険物取扱作業の保安に関する講習の開催について

講習対象者 甲種、乙種および丙種危険取扱者

場所・日時 ○砺波会場（砺波市消防本部）
3月1日(火) 午前9時～
○魚津会場（魚津市農協会館）
3月3日(木) 午前9時～
○高岡会場（高岡商工会議所ビル）
3月8日(火) 午前9時～
○富山会場（富山県農協会館）
3月10,11日(木、金) 午前9時～

受講申請期間 昭和58年2月7日から16日まで

申込先 最寄りの消防署または県消防防災課。なお、詳細については、県消防防災課（☎0764-831-4111 内393）までお問い合わせください。

●母子家庭向け修学資金の貸付案内

お子さんが高校、大学などに就学するために必要な経費を県がお貸しして進学のお手伝いをします。

- 貸付限度額/月額7,000円～29,000円
 - 申込受付期間/3月1日～25日
- この他に特例修学資金もあります。詳しい問い合わせ・申し込みは、市町村の母子福祉担当窓口へ。

国民の総意で戻そう北方領土
2月7日は北方領土の日



落ち着いた佇まいの知事公館



広い庭で開かれた「知事と高校生のつどい」

明日を拓く人づくり

シリーズ 県有施設紹介⑪

富山県知事公館

富山市舟橋南町2-2 ☎0764-32005

知事公館は、主として県の賓客の応接、重要会議、行事などに使用するための施設です。

しかし、県では、土曜日、休日には、文化活動などを行う団体のみなさんに、その一部を利用していただいています。
また、一般のみなさんが見学することもできます。
文化活動など、みなさんのご利用をお待ちしています。

利用案内

(1) 利用目的

文芸（文学、詩、短歌、俳句など）、古典芸能（謡曲、詩吟など）、生活文化（茶道、華道など）の批評会、発表会、研究会など

(2) 利用できる人

県内に本拠をもつ文化活動などを行う団体

(3) 利用場所および収容人員

応接室（十人～十五人）
和室（十人～三十人）
茶室（十人～十五人）
庭（百人以下）

(4) 利用時間および使用料

区分	時間	使用料	冷暖房料
一日の利用	午前九時～午後四時	千円	二百五十円
午前の利用	午前九時～午後四時	五百円	百二十五円
午後の利用	午後一時～午後四時	五百円	百二十五円

(5) 申し込み

公館を利用しようとする団体



茶室でおこなわれた初釜

体の代表者は、利用の三カ月前から一カ月前までに「利用許可申請書」を県庁総務部管財課へ提出してください。
また、見学をしようとする方は、事前に見学申込書を管財課へ提出してください。

富山県総務部管財課
富山市新総曲輪一ノ七
☎0764-32005 (内)361
なお、利用の詳細については、管財課へお問い合わせください。

みなさんと県庁とのパイプ役

イメージアップをはかる県広報

広報課では、みなさんと県庁とを結ぶ大切なパイプ役として、この「県広報とやま」のほか、テレビ、新聞などの媒体を活用して、

県の施策の紹介や、暮らしに欠かせない情報を提供しています。

テレビ広報

KNB

県民に向かって開かれた県政の諸施策等について、県民のみなさんに十分知っていただくための番組です。ベテラン稲垣健次アナを司会として、親しみやすく構成します。

なお各週ごとの具体的内容は次のとおり予定しています。

- 第1週 県政上の諸問題を紹介。
- 第2週 県有施設の紹介（新シリーズ）。
- 第3週 県の主要プロジェクト紹介（4月～9月）
- 第4週 知事と語る（又は知事に聞く）。
- 第5週 本県出身者の登場

富山テレビ

県内各地の明るい話題や郷土の自然、産業、文化、県民の活動などを紹介し、郷土のよさを見直そうという番組です。

話題をメインに各ミニコーナーでつなぎ、バラエティに富んでいて家族みんなで楽しめます。逢地真理子アナを司会として、話題を新しい面から切り拓くため男性レポーター3名を起用しています。
小泉哲也（プロスキーヤー）
金木 静（作家）
飯田敏雄（福光東部小校長）

新聞広報

みんなの県政

毎月最終土曜日に北日本、富山、読売、北陸中日の4紙に各頁で掲載しています。このうち、4回は、見開き2ページを使って掲載します。

県からのお知らせ

朝日、毎日、毎日第2、最終土曜日に、北日本、富山、読売、北陸中日は第2土曜日に掲載しています。

県民相談室

県政についてのご相談は県民相談室へ

県民相談室	富山市新総曲輪1-7(県庁内) ☎富山31-4111(代) 31-3131(県民電話・直通)
高岡地方県民相談室	高岡市赤祖父211(総合庁舎内) ☎高岡21-9411
魚津地方県民相談室	魚津新宿10-7(総合庁舎内) ☎魚津24-5311
砺波地方県民相談室	砺波市幸町1-7(総合庁舎内) ☎砺波3-5151

KNB「こんにちは富山県です」 毎週日曜日、午前8時～8時30分	2月のテレビ	富山テレビ「110万人のひろば」 毎週日曜日、午前9時～9時30分
21世紀を指向する新しい教育 ～新設高校紹介～	6日	若者とタウン誌
技術立県構想と富山産業展示館	13日	なぎなたに挑戦
知事に聞く	20日	準備進む置県百年記念事業
郷土出身者に聞く（大平山濤氏）	27日	当世カラオケ事情



障害者や老人のみなさんの夢と希望をのせて
「福祉の店」オープン

「福祉の店」が、大和富山店6階に1月13日オープンしました。障害者、老人のみなさんの心のこもった手作り作品をぜひご覧ください。みなさんのご来店をお待ちしています。

なお、作品の販売代金は、全額、作品を製作した施設や本人に返され、再び作品を製作するための材料費などに還元されます。



●事業内容

1. 作品の展示販売
2. 障害者問題やボランティア活動に関する簡単な相談

●販売作品

人形、クッション、エプロン、ぬいぐるみ、こけし、竹細工、木工製品などの手作り作品

●お問い合わせ

富山市舟橋南町5-14
富山県社会福祉協議会「福祉の店」係
☎0764-32-2958
富山市新総曲輪1-7
富山県障害福祉課
☎0764-31-4111 (内)425